

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	55%	自校A B層の割合	55%

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
<b>学校全体の取組</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査報告書の授業アイデア例を活かした授業の実施</li> <li>校内OJTの充実</li> <li>校外研修（研修センター・指導教諭の授業参観等）の積極的な活用</li> <li>管理職による授業参観及び指導</li> <li>校内研究における「学び合い」を重視した授業への質的転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリルの診断テストを毎学期始めと終わりに年6回行い、結果の分析を行う。</li> <li>分析の結果をもとに、「水チャレ」および学力向上の時間に個人の課題に取り組みさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学年+10分」の学習ができる習慣を付けるため、生活指導部と連携し、長期休み後に生活アンケートを実施する。</li> <li>「江戸川っ子Study week!」を通じた学習への取り組み方の基礎固め</li> <li>MEXCBTを活用し、学習の記録を残す。</li> </ul>
<b>特に支援が必要な児童・生徒への手立て</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究的な学習を重視した授業の中で、課題の設定や調べ学習の際に、取り組み方や調べ方を丁寧に指導する。</li> <li>高学年では教科担任制を実施し、誰にでも分かりやすい授業を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎学期末の診断テストの結果をもとに放課後補習教室の対象児童を決定し、支援が必要な児童に重点的な指導を行う。</li> <li>長期休みに個別の課題を与え、苦手分野の克服を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童個々の力に応じた適切な課題を与える。</li> <li>AIドリルを活用し、苦手な問題に重点的に取り組む。</li> </ul>
<b>成果指標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力学習状況調査における「国語・算数の授業の内容はよく分かる」の回答で肯定的な回答80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>診断テストにおける8割以上達成者80%以上</li> <li>全国学力学習状況調査におけるAB層の割合、55%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムチェック表で、「学年+10分」の学習ができたかを児童100%にする。</li> <li>全国学力学習状況調査における「授業以外の勉強時間」1時間以上の割合90%以上</li> </ul>